たんぽぽ分科会提案

１　単元設定の理由

〈研究主題〉

「主体的・対話的に学ぶ児童の育成
～身近な地域素材を活用した教材開発を通して～」

昨年度たんぽぽ学級では、５・６年生が「みんなの安全・守り隊」として「学校の周りの危険からみんなを守れ！」の単元で、自分たちが住んでいる地域の中で「危ない場所」を見付け、自分の通学路だけではなく、たんぽぽ学級１・２年生の通学路を調べて、１・２年生に危ない場所を教える活動を行った。今年度はたんぽぽ２・３組の３・４年生が「みんなの安全・守り隊」に任命され、「みんなの安全守りたい」の大単元を「交通安全と不審者からみんなを守ろう」、「地震の危険からみんなを守ろう」、「火事からみんなを守ろう」の３つの単元に分けて、学校や地域における安全学習を行う。

研究主題における主体的に学ぶ姿とは、学ぶことに興味や関心をもち、自分たちの生活と関連付けながら見通しをもって学習を進める姿であると捉える。本実践では、最初に児童が考えやすい学校で地震が起こったときの避難について考え、自分たちの生活と関連付けながら、避難する方法や地震への備えについて調べていく。身近なことから考え、学習のゴールを「１・２年生に伝えよう」と設定し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。

対話的に学ぶ姿とは、子供同士や地域の人との関わりを通して、自分の考えを広げたり深めたりする姿であると捉える。ペア学習の中で互いに意見を出し合う場面や地域の防災士の方に話を聞いて、アドバイスをもらう場面を設定する。友達や教員との関わり合いから生まれる学びだけでなく、地域の人々との対話によって、自分たちの考えをさらに広げたり、深めたりできるようにする。

以上のことから、学校や学校の周りの危険を調査するために地域を探検し、見通しをもちながら学習をすることや、友達や地域の人々との対話を通して考えたり深めたりすることによって、主体的・対話的に学ぶ児童を育成できると考えた。

２　児童の実態について

以下の通り、アンケート調査を行った。

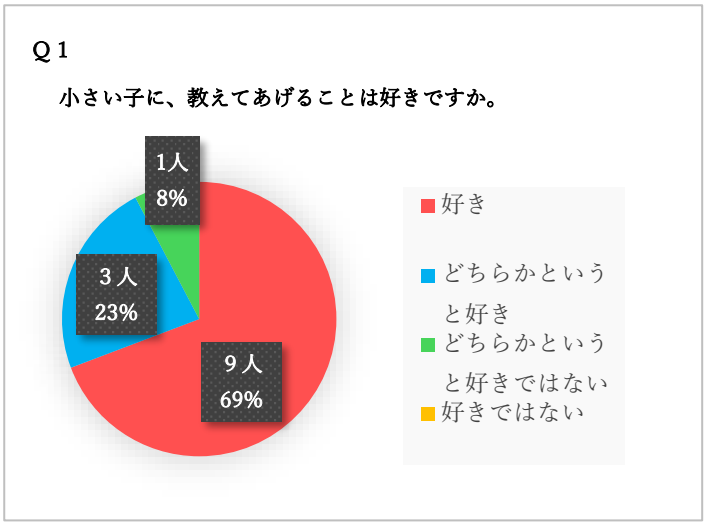
（１）調査方法：質問紙によるアンケート調査

（２）調査対象：たんぽぽ２・３組　13 名

（３）実施時期：令和８年７月３日（金）

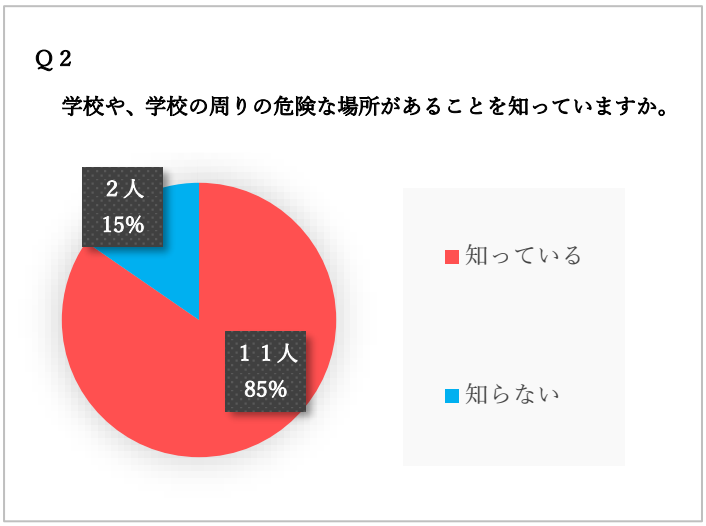
（４）調査結果及び考察（単位：人）

【学習に関するアンケート調査】



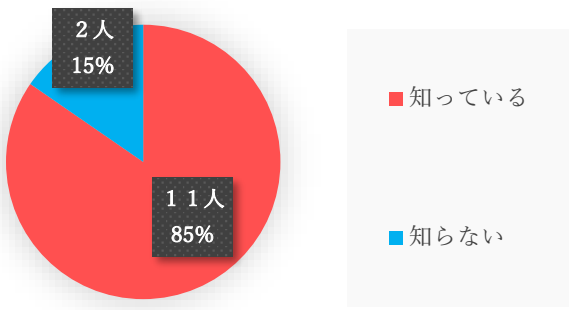
「Ｑ１小さい子に、教えてあげることは好きですか」という問いに対しては、「好き」と回答した児童が７割いた。「好きではない」と回答した児童はいなかった。調べたことを低学年に伝える場を設定することで、意欲的に継続して学習を進めていけると考える。

【地域に関するアンケート調査】



Q３

学校や、学校の周りを守っている人を知っていますか。



Q４　たとえば、どんな人を知っていますか。

・先生　８人
・校長先生　３人
・管理員さん　３人
・介助員の先生　３人
・お父さん、お母さん　３人
・友達　２人
・放課後デイサービスの先生　２人
・ヘルパーさん　２人
・警察官　１人

「Q２学校や、学校の周りの危険な場所があることを知っていますか。」という問いに対して、８割以上の児童が「知っている」と回答した。このことは、毎月の安全指導や安全を意識した週目標の積み重ねの成果と考えられる。また、「一人で登下校ができるようになった児童も増え、交通ルールを意識し、通学路の建物や道路の様子を見ていることが気付きにつながっていると考える。

「Q３学校や学校の周りの守っている人を知っていますか。」という問いに対して、８割以上の児童が「知っている」と回答した。一方で「Q４たとえば、どんな人を知っていますか。」という質問に対して、６割以上の児童が先生と回答し、管理員さん、お父さん、お母さん、友達は２割にとどまり、警察などの外部の機関や人について回答した児童は、ほとんどいなかった。このことから、身近な人だけでなく、危険から守ってくださっている地域の施設や人にも意識を向けることが必要だと考える。

３　研究主題に迫るための手だて

（１）主体的に課題解決に向かうための学習計画や足跡の視覚化

たんぽぽ２・３組の児童は、前校長から「みんなの安全守り隊」に任命された。前単元「交通安全や不審者からみんなを守ろう」では、学校の安全については管理員に地域の安全については警察署に実際に行って警察官にそれぞれインタビューして、学校や地域の安全について学習した。「みんなの安全守り隊」として主体的に学習に取り組む姿が見られた。

本単元は、「みんなの安全守り隊」として地震の危険からみんなを守るためには、どのようなことが必要か、学校での避難行動や日常備蓄、地域の避難場所について学習していく。教室内に学習計画を掲示し、単元のゴールに「１・２年生に伝えよう」という場を設定することで、低学年を地震の危険から守るために主体的に取り組むと考える。また、単元のゴールや毎時間のゴールを掲示し、児童が主体的に学習の見通しをもてるよう、「単元計画の視覚化」を行い、「ゴールはどこなのか」、「前時まで何をしてきたのか」を把握できるように足跡を視覚化する。

（２）対話的に課題解決に向かうための相手意識の明確化

話をする相手を意識させることで、よい意見を取り入れ、自分の考えが広げられると考え、対話的に課題解決に向かうために児童一人一人が自ら考える場面、ペアで考える場面、地域の人々と対話する場面を設ける。

児童一人一人が自ら考える場面では、児童が体験的な活動を通して調べていくことで自分の考えがもてるようにする。また、ペアで考える場面では、実物や絵カード等を使って自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりすることで、自己とは異なる考えに触れ、考えが広がるようにする。本単元では自分たちで選んだ学校の場所（体育館、校庭、階段、廊下、トイレ、図書室）での避難行動をグループで考えて実践したり、非常用持ち出し袋に入れたらよい物をペアで考えていく活動を取り入れたりする。さらに、地域の防災士さんに、地域の特徴や地震が起きたときの正しい行動を教えてもらったり、児童が考えた非常用持ち出し袋の中身についてのアドバイスをもらったりすることで得た新たな気付きから、自分たちの考えを広げられるようにしていく。

４　実践授業

たんぽぽ学級　総合的な学習の時間　学習指導案

日　時　　令和８年 10 月 30 日（金）
対　象　　たんぽぽ２・３組
　　３年　12 名　４年　１名

単元名　みんなの安全　まもりたい　～地震の危険からみんなをまもろう～

単元の目標

住んでいる地域で地震が起きたときに予想される危険から、避難する方法や地震への備えについて調べたり、まとめたり、伝えたりすることを通して、防災の必要性や自分にできることに気付くことができる。

単元の評価規準

評価の観点	評価規準
ア 知識・技能	① 地震によって起こる災害時の危険について理解している。 ② 災害時の避難行動や必要な備えについて理解している。 ③ 多様な人々と関わりながら解決していく学習の良さに気付いている。
イ 思考・判断・表現	① 避難訓練などから学んだことをもとに日常生活を振り返り、自分たちが知りたいことや伝えたいことを見付けている。（課題設定・計画） ② 町探検で調べたり、地域の方に話を聞いたりして、情報を集めている。（情報収集） ③ 調べたことを基に、災害時の正しい避難行動や必要な備えについて整理し、下学年に分かりやすいようにポイントを絞ってまとめている。（比較検討・整理分析） ④ 地震の危険から避難する方法や地震への備えについて、イラストや写真、動作など、下学年に分かりやすい方法で表現している。（表現・まとめ）
ウ 主体的に学習に取り組む態度	① 地震の危険からみんなを守るために、自分なりに目標をもって主体的に取り組もうとしている。 ② 防災の必要性に気付き、地震の危険からみんなを守るために自分にできることを考えようとしている。 ③ 自分の良さや頑張りを認めたり、他者の考えを受け入れたりしながら、課題を解決しようとしている。

単元の指導計画と評価計画（16 時間扱い）

時		学習活動	指導上の留意点	評価規準 （評価方法）
第１次 地震が起きると、どんなことが起きるか考えよう （1）	1	○地震によって起こる災害時の危険について考える。 ・上から物が落ちてくる。 ・横から物が倒れてくる。 ・電話ができない。 ・水、電気、ガスが止まる。 ・お店の品物がなくなる。 ○下学年に「地震が起きたらどうしたらよいか」を教えるために調べることを確認する。 **【単元全体のめあて】　地震の危険から、みんなをまもろう**	・前単元の振り返りをする。 ・地震の映像や写真を用いて、地震が起きたときのことをイメージしやすくする。 ・水や電気が止まるとどのようなことができなくなるのかを考える。 ・下学年を地震から守るために調べていくことを確認する。	イ―①（発言）
第２次 地震が起きたらどうするか調べよう （４）	2	○学校で地震が起きた時の避難行動について調べる。 ・緊急地震速報について知る。 ・体育館、校庭、階段、廊下、トイレ、図書室で地震が起きたときの避難行動を考え、実践する。 ・写真を撮って記録する。	・教室での避難行動を振り返り、「おちてこない」、「たおれてこない」、「うごいてこない」、「だんごむしのポーズ」、「さるのポーズ」についてイラストや動作でおさえる。	イ―① （観察・発言）
		○学校で地震が起きた時の正しい避難行動を知る。 ・写真を使って発表する。その際、なぜそうしたのか、理由も伝える。 ・校長先生の話を聞き、正しい避難行動を話し合う。	・「おちてこない」、「たおれてこない」、「うごいてこない」、「だんごむしのポーズ」、「さるのポーズ」という避難のポイントを掲示し、次の時間につなげる。	ア―② （発言・発表）

	4	○住んでいる地域で地震が起きたときの避難行動について調べる。 ・町探検をして、地震が起きた時に危険な場所について調べる。 ・それぞれの場所での避難行動を考え、話し合う。	・事前に、地域の危ない場所や特徴について防災士さんから話を聞く。それを基に、町探検で避難行動を考えさせたい場所を決めておく。（古い建物、細い道、ブロック塀） ・実際の場所で避難行動を取ってみる。写真や動画で記録する。	イ―② （観察・振り返り）
	5	○地域の防災士さんから話を聞き、地域の特徴や地震が起きた時の正しい避難行動を話し合う。	・地震が起きたとき、この地域だからこそ特に気を付けるポイントを写真と文字カードでおさえる。	イ―② （発言、振り返り）
第３次 地震が起きる前に準備することを調べよう （４）	6	○地震が起きる前に準備できることを考え、話し合う。 ・食べ物や飲み物を用意しておく。 ・家具を固定する。 ・どこに避難したらよいのか調べておく。	・初めに、地震によって起こる災害時の危険について振り返る。	ア―①（発言）
	7	○非常用持ち出し袋が必要な状況を確認し、何が必要か考える。	・非常用持ち出し袋の中に入れる物について、家庭で事前に調べたことを発表し、共有する。 ・非常用持ち出し袋について、目的、使い方、使用する場面や条件をおさえる。 ・非常用持ち出し袋の実物を用意し、イメージしやすくする。	ア―①（発言）
	8	○非常用持ち出し袋に何が必要かペアで話し合う。 ・２人で話し合いながら絵カードを選ぶ。 ・ワークシートに、選んだ物と理由を書く。	・児童が自分の考えをもったり、整理したりしやすいよう、非常用持ち出し袋に入れる物は８個までにする。 ・理由が書けないペアは、教員が質問をし、選んだ理由を引き出すようにする。	ウ―③ （発言・観察・ワークシート）

	9	○地域の防災士さんから話を聞き、地震が起きる前に、非常用持ち出し袋の中に準備するものが分かる。（本時） ・前時に選んだ絵カードをもとに、実際の物を非常用持ち出し袋に入れる。 ・選んだ物と理由を発表する。 ・防災士さんから話を聞く。 ・防災士さんの話を聞いたり、友達の発表を聞いたりして、改めて必要だと考えた物を追加する。	・地震によって起きる危険や使えなくなるものを、児童の発言をまとめた掲示物やイラストを使っておさえる。また、そのために非常用持ち出し袋を準備することや、それを下学年に教えることを再確認する。 ・各ペアが選んだ物の写真を、教員がテレビに映す。また、黒板に各ペアが選んだ物の写真を残し、振り返れるようにする。 ・防災士さんから、特にどのような物が必要なのかを教えてもらい実物を見て確認する。 ・防災士さんから、人によって必要な物が異なることや、季節によって準備するものが違うことを教えてもらい、ポイントを板書し全体でおさえる。	ア―② （観察・発言）
第４次 避難する場所を調べよう （３）	10	○家にいると危険なときや家が被害にあって住めなくなったとき、どこに避難すればよいのか考え、発表する。 ・小学校 ・中学校 ・公園 ○地域にある協和井戸端広場や給水ステーションの存在を知る。	・家が崩れている映像や写真を提示し、家に住めない場合があることを再確認する。 ・避難所の映像や写真を見て、イメージしやすくする。 ・下学年を危険から守るために、避難できる場所を調べ、教えることを再確認する。 ・協和井戸端広場や給水ステーションの写真を提示する。ベンチや井戸など、ポイントになる物の写真を見せ、次の時間につなげる。	ア―①（発言）
	11	○協和井戸端広場へ行き、そこにある物や、その使い方を知ったり、広場がある理由を聞いたりする。 ・地域の防災士さんに話を聞き、協和井戸端広場について知る。	・協和井戸端広場へ行き、防災士さんから話を聞く場を設定したり、実際の物を見せたりする。	ア―③ （観察・発言）

	12	○協和井戸端広場について分かったことを振り返り、自分にできることを考える。	・写真や映像を用いて振り返る。	ウ―②（発言・振り返り）
第５次 一、二年生に教えてあげよう（４）	13 14	○グループに分かれて調べたことをまとめる。	・まとめ方の例を示し、教員と一緒に写真や文字でまとめるようにする。	イ―③（発言・観察・タブレット端末・模造紙）
	15	○発表に向けて、グループで練習する。	・グループごとに教室を分け、落ち着いた環境で練習ができるようにする。	ウ―①（観察）
	16	○たんぽぽ１組、１年１組のみんなに分かったことを発表する。	・「地震の危険からみんなをまもろう」という単元の目標を提示し、そのために、「調べたことを教えてあげよう」という発表の目的を再確認する。	イ―④（観察）

本時の学習（全 16 時間中の第９時）

（１） 目標

地域の防災士さんから話を聞き、地震が起きる前に、非常用持ち出し袋の中に準備するものが分かる。

（知識・技能）

（２） 本時の展開

時間	学習活動	◇指導上の留意点・配慮事項 ●評価（評価方法）
導入 ５分	１　前時の振り返りを行う。 ・非常用持ち出し袋の中に準備するものを考えた。 ・入れる物を決めて、ボードに絵カードを貼った。 ２　本時のめあてと流れを確認する。 **非常用持ち出し袋を完成させよう。**	◇地震によって起きる危険や、使えなくなるものを、児童の発言をまとめた掲示物やイラストを使っておさえる。また、そのために非常用持ち出し袋を準備することや、それを下学年に教えることを再確認する。 ◇絵カードが貼ってあるボードを見せ、前時の振り返りをする。
展開 ５分	３　選んだ絵カードやワークシートを基に、非常用持ち出し袋に実物を入れる。 ・実物を見たり、触ったりして、大きさや重さなどを知る。	◇ぞれぞれの物がどこにあるのかを全体で確認する。 ◇活動の前に終わりの時間を示し、見通しをもてるようにする。
18 分	４　ペアごとに、選んだ物を発表する。 ・選んだ物の写真を電子黒板に映し、ワークシートを基に発表する。 ・防災士さんからの質問を聞き、なぜそれを選んだのか理由を話す。	◇各ペアが選んだ物の写真を、教員が電子黒板に映し、ワークシートを見ながら発表できるようにする。また、黒板に各ペアが選んだ物の写真を残し、振り返れるようにする。
８分	５　防災士さんの話を聞く。 ・特にどのような物が必要なのか、また、人によって必要な物が異なることや季節によって準備するものが違うことなどを知る。	◇防災士さんから、特にどのような物が必要なのかを教えてもらい実物を見て確認する。 ◇防災士さんから、人によって必要な物が異なることや、季節によって準備するものが違うことを教えてもらい、ポイントを板書し全体でおさえる。
５分	６　防災士さんの話を聞いたり、友達の発表を聞いたりして、必要だと思う	◇２人で話し合って決められるよう、必要に応じて教員が支援する。

	物を２つ加える。	◇なぜそれを加えたのか、児童から理由を引き出す。 ●地域の防災士さんから話を聞き、地震が起きる前に、非常用持ち出し袋の中に準備するものが分かっている。【知・技】 （発言、観察）
４分	７　本時の振り返りを行う。	◇本時を振り返り、振り返りカードにシールを貼るようにする。教員が机間指導し、理由を聞くようにする。 

板書計画

みんなのあんぜん まもりたい　じしんのきけんから みんなをまもろう

ひじょうようもちだしぶくろ を かんせいさせよう

きょうの 学習

①ものをいれよう

②はっぴょうしよう

③ぼうさいしさんの
話をきこう

④もういちどかんがえよう

⑤ふりかえりをしよう

1 グループ
写真

2 グループ
写真

3 グループ
写真

4 グループ
写真

5 グループ
写真

6 グループ
写真

ぼうさいしさんからのアドバイス

これを いれよう

ポイント

○

○